

平成 25 年からの西之島噴火による地形の変化について (第九報)

平成 25 年 11 月 20 日に西之島の南東約 500m の海上で新島の形成が確認され、その後も噴火は継続し、西之島と一体となった。

平成 27 年 12 月 9 日に撮影した空中写真の判読及び地形変化図（別紙 4 - 2）を参照して地形判読図（別紙 4 - 1）を作成した。

地形判読により判明したことは以下のとおりである。

1. 平成 27 年 7 月以降に噴出した溶岩流

火砕丘（C1）北東にある火口（Cr3）及び南方にある火口（Cr4）から溶岩が噴出し、溶岩流は西方を除く方向へ流下し、東方及び南方の一部で海域まで到達した。

2. 火砕丘変化と火口の拡大、新火口の形成

火砕丘（C1）の火口（Cr1）が拡大している。その北に隣接する火口（Cr2）から噴出した火砕物によって火砕丘（C3）が形成されている。北東山麓に存在していた火砕丘は火口（Cr3）から噴出した溶岩流により消滅した。また、南方中腹に新たな火口（Cr4）が形成され溶岩流が流出している。